

## おわりに

本学では、学生の学ぶ意欲を育成する基盤を修学基礎教育に位置づけている。学生は授業や授業外活動、学生生活全般を通して得られた知識や情報・体験を振り返り、行動履歴として蓄積管理する。その行動履歴を確認する修学アドバイザーは、定期的な面談とフィードバックコメントにより修学指導を行う。これにより、学生は自らの学習と態度の評価・改善を図り、教員は学生の実態を的確に把握し、更なる授業方法の工夫・改善に努め、教育の実質化を図り、組織的な教育の展開を進めている。

特に、「KIT ポートフォリオシステム」の活用、授業連携、修学アドバイザーの指導を通して、個々の学生への継続的な学習意欲の触発と修学支援から、学生の段階的な目標づくりと修学満足度の向上を目的とする「達成度評価ポートフォリオ」の果たす役割は大きい。また恒常的に、学生の学習意欲を引き出すために、本学学生の実例を基にした多様な修学モデルを提示することによって、更なる学ぶ意欲の触発を促し、本学の教育目的である「自ら考え行動する技術者」の育成機能強化を図ることが、本プログラムの役割である。

平成 16 年度に開始した「修学ポートフォリオ」を活用した本学の新しい初年次教育の試みは、平成 19 年度に各学年の「達成度評価ポートフォリオ」が全学的に展開されたことによって完成年度を迎えた。それは初年次教育に対する有効性のみならず、いまや上級学年学生にその教育効果が維持されつつある。【表 1】に示したように、教育支援機構の各種センターの利用学生が増加したことなどその一例であるが、「褒める教育」の一環である「学長褒賞」<sup>2)</sup>の受賞件数が平成 13 年度の 3,002 件から、平成 19 年度には 9,111 件を数え、実に 3 倍にも増加したことは、学生の意欲と行動とが着実に前進しているひとつの証左であろう。

【表 1】 主要課外教育プログラム利用者数・学長褒賞受賞者数（ともに延べ数）

年 度	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19
学部学生数	7,513	7,295	7,011	6,851	6,824	6,892	6,809
数理工教育センター	12,163	14,181	14,456	13,579	14,772	15,784	15,765
夢考房 26	18,290	21,220	31,330	45,864	47,333	53,233	55,568
夢考房 41	40,327	41,940	43,842	46,203	47,597	51,070	52,270
学長褒賞	3,002	3,918	4,379	5,492	6,787	7,928	9,119

そして多くの大学では GPA (Grade Point Average)、本学では QPA (Quality Point Average = (評価ポイント×単位数) ÷ (履修科目の総単位数)、評価ポイント: S (4)・A (3)・B (2)・C (1)・D (0)) と呼称している数値に関して、従来とは異なる数値が見られるようになってきた。

【表 2】の見方は、1 年次のポイント、2 年次までの通算ポイント、3 年次までの通算

ポイント、卒業時まで、つまり4年間の通算ポイントを示している。一般的な傾向は、平成13年度から平成15年度にかけての入学生のように2年次に下がり、そして持ち直して卒業していく。ところが、ポートフォリオを開始した平成16年度の入学生から、2年次のQPAは下がらず、僅かではあるが上昇傾向にある。このような結果がこれからも継続していけば、本プログラムの成果が現れてきたのではないかと考えることも可能かもしれない。

【表2】入学年度別学生QPA累計平均値

	1年終了時	2年終了時	3年終了時	4年終了時
平成13年度入学生	2.19	2.09	2.17	2.30
平成14年度入学生	2.18	2.14	2.21	2.34
平成15年度入学生	2.31	2.23	2.26	2.36
平成16年度入学生	2.24	2.30	2.43	2.48
平成17年度入学生	2.35	2.39	2.44	
平成18年度入学生	2.33	2.38		
平成19年度入学生	2.33			

また本学では6月に保護者会総会、8～10月にかけて全国53会場での地区交流会を開催している。ポートフォリオ導入以前は、保護者に提示できる資料は成績表だけであり、修学アドバイザーを主とする面談記録をもとに面談を行ってきた。地区交流会に対象学生の修学アドバイザーが赴くことは稀であり、そのため画一的な面談を行うにとどまっていた。現在も保護者の関心は学生の成績や進路に関することが主ではあるが、子女の独り暮らしの心配、学生生活そのものへ強い関心などから、大学に問い合わせを寄せる保護者が増えている。特に遠隔地の保護者にその傾向が強いように見える。

その要請に応える仕組みとしても、学生が作成した「第2学籍簿」であるポートフォリオの情報は有効である。保護者からの評価も上々で、「ポートフォリオシートを頂きたい」との要望が多い。残念ながら個人情報保護法により渡すことはできないが、学生は学内イントラネットによりいつでもプリントアウトできるので、「その旨話しをされてはいかがでしょうか」と答えている。今後、保護者と大学がより緊密な関係を構築することによって、両者が学生の教育に協力して向かうことになるよう期待するところである。

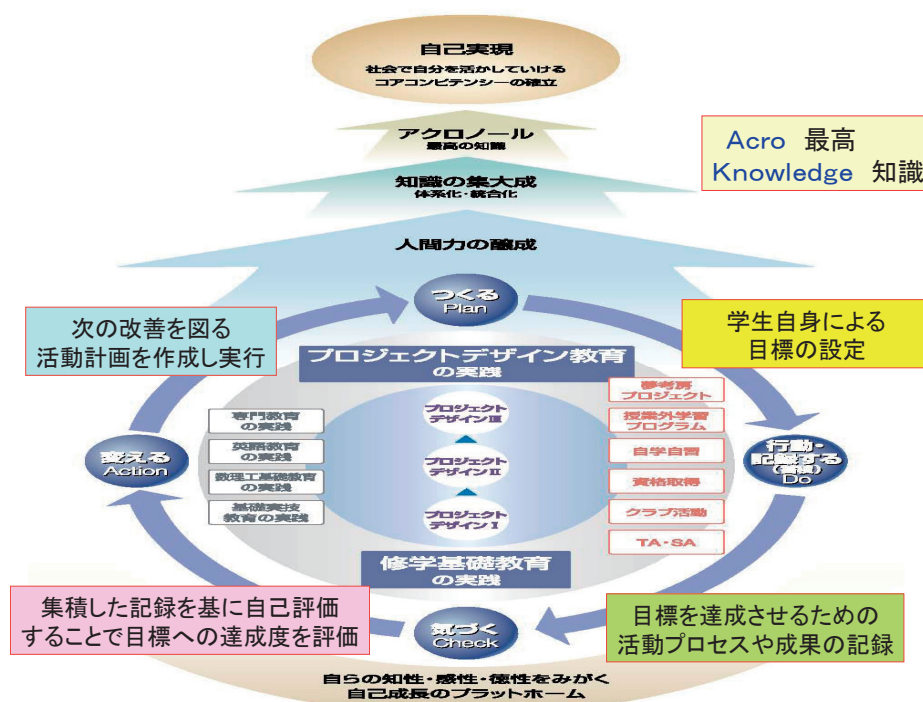
さらに、進級した学生が1年次の修学アドバイザーとのコミュニケーションを継続して保ち、進路や生活に関する報告や相談を持ち込んでくることが多いという報告を受けている。その環境下において、上級生と1年生との交流が始まり、一部の学科では上級生が新入生を自主的に指導する「勉強会」を立ち上げ、定期的な運営会議の開催やホームページを作成するなど、副次的成果をも生み出している。

なお先に紹介したが、平成19年11月に、2～3年生10名と本科目担当教員3名とで「修学ポートフォリオ」に関する座談会「夢の実現を支援する KIT ポートフォリオシス

テム」を開催した。そこでは既述したように、システムの有効性、活用事例、問題点や改善点など数多くの有益な意見交換がなされ、それは学生と教員との協働による授業改善事例として位置付けることができる。この様子は、本学ホームページの「KIT ポートフォリオ 修学モデルの紹介」 (<http://w3e.kanazawa-it.ac.jp/portfolio/>) でビデオ映像を見ることができる。本報告書に DVD を添付しているのでご覧頂きたい。

またこのようなイベントを契機に、学生と教員との一層の協働成果にもつながりつつある。例えば、大学案内書などで学生の標準的なキャンパス生活を眼にすることがあるが、本学では本人の了解を得て、詳細なデータを付した実在の修学モデルを提示することができるようになった。現在上記サイトに公開している実在の修学モデルは、①「自分を生かせる就職を目標とする学生」、②「大学院進学を目標とする学生」、③「課外活動（例えば夢考房活動）を目標とする学生」の3例（以上、付録3に収めた）と、④その他7例である。オープンキャンパスにおいて、学生が受験生や保護者に対して自分のデータを公開し、その有益性を説明したうえで、デモ入力を体験させている。

学生は「KIT ポートフォリオシステム」を活用することによって、あまり意識せず自然に PDCA サイクルを回す習慣が身に付くことになり、この積み重ねによって本学の教育目標である「自ら考え行動する技術者の育成」に近づくことになる。これを自己成長型教育プログラム「ACROKNOWL PROGRAM」と称している。



【図1】自己成長型教育プログラム「ACROKNOWL PROGRAM」

自己成長型教育プログラムとは、「教えられる」「与えられる」のではなく、自分から学び成長する仕組みを体得するものであり、そこに人間力の醸成がある。実はこのことが本

学の教育付加価値のひとつでもある。すなわち、このプログラムをやり遂げることによって、大学を卒業するとき、「何々ができるようになりました」と自信をもって説明できる、そういう学生を育てることが本学の教育目標「行動する技術者の育成」と考えている。

しかし本報告書各ポートフォリオの章において、今後の課題が提示されているように問題点も少なくない。また「修学ポートフォリオ」に関する座談会「夢の実現を支援する KIT ポートフォリオシステム」での学生諸君の改善案にも傾聴すべき点がある。

多くの学生にとって大学は最期の教育機会の場であり、大学には入学を許可した学生を有為で貢献できる人物として社会に送り出す使命がある。そのためには初年次における修学・生活指導が重要であることは自明で、学生の大学生活への適応を直接・間接的に支援し、上級学年に導かなければならない。そのツールとして、本学では特に学生作成の第2学籍簿である「修学ポートフォリオ」を重視しているのである。

なお平成 20 年度から卒業生に対して、以下のデータを CD に記録し配付することにして

いる。

**【達成度評価ポートフォリオ CD に記録する内容】**

1. 修学ポートフォリオ（1年次「修学基礎ⅠⅡⅢ」で記録した各学期の達成度自己評価）
2. キャリアポートフォリオ（1年次「進路ガイド基礎」で記録した高校までの自分史、在学時・卒業後の計画とまとめの内容）
3. 自己評価レポート（指定授業科目での学習結果の自己評価内容）
4. 工学設計ポートフォリオ（「工学設計ⅠⅡ」での活動記録）
5. 達成度評価ポートフォリオ（1年次「修学基礎Ⅲ」、2年次「コアガイド」、3年次「コアゼミ」における各年次の達成度評価〈回顧と展望〉）
6. 「工学設計Ⅲ」公開発表審査会での所属学系予稿集（PDF）